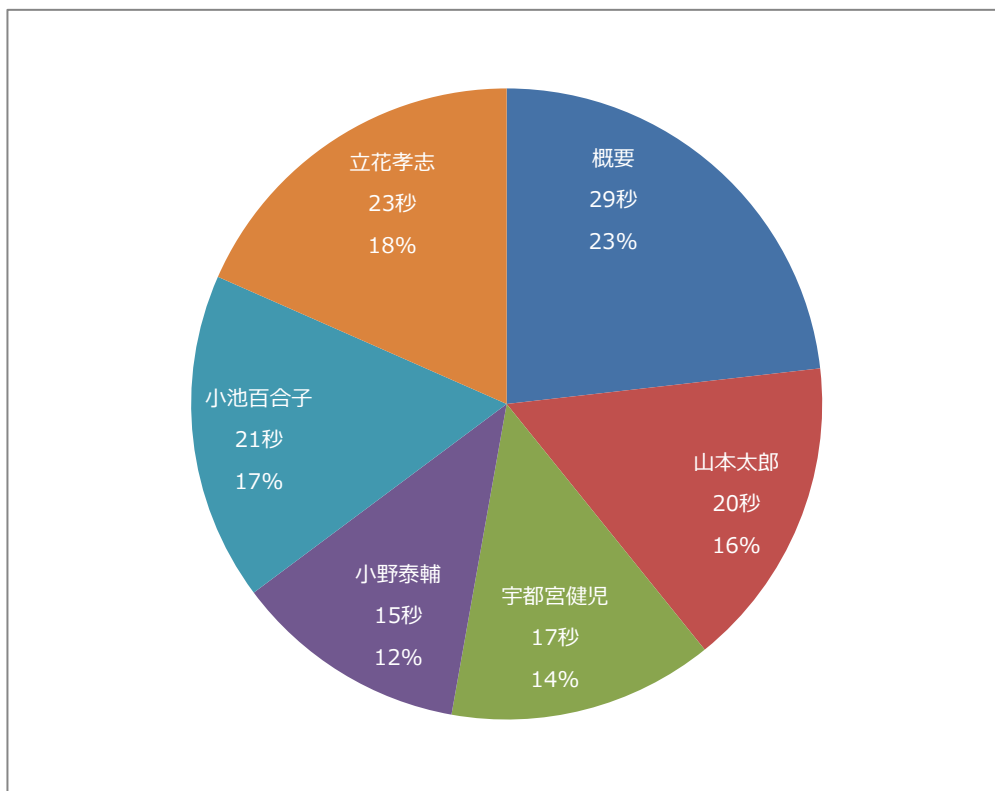


TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年7月4日
<p>出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙</p> <p>※金平キャスターは熊本県の芦北町から中継</p> <p>国本末華（気象予報士）、福島隆史（TBS 災害担当解説委員、日本災害情報学会副会長）</p>		
<p>検証テーマ：東京都知事選挙、【特集】香港が香港でなくなった日</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州で豪雨 ・熊本で河川が氾濫 ・鹿児島県でも特別警報 ・気象庁が大雨特別警報を警報に切り替え ・気象予報 ・東京の感染者がきょう 131 人確認 ・東京都知事選挙 ・横浜市の理容師が店内で同僚を刺殺未遂 ・【特集】熊本・鹿児島に記録的大雨…現場は ・【特集】香港が香港でなくなった日 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都知事選挙：結論→特に問題なし <p>膳場キャスターの「さて、いよいよ明日に迫った東京都知事選、選挙活動の最終日に各候補はそれぞれ街頭やインターネットなどで有権者に最後の訴えをしました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したようなやり取りが繰り返されていた。</p> <p>山本太郎「小池さん、本気出してますか、私には本気出しているように見えない、山本太郎が都知事になったら、15兆円のプランで2月6月の皆さんの損失を補填、そして体力を回復して頂き、第二波と一緒に備え乗り越えていく。」</p> <p>宇都宮健児「もう一回東京アラートを本来なら発信しなきゃいけない時期なのに、何も発信していません、検査体制を充実する。これなくして経済の活動も行うことはできません。」</p> <p>小野泰輔「政治というのは結果が全てです。その結果が出ていない、都民と約束したことを全く守っていない、選挙のときだけいいことをいう。そういう政治は終わらせなければなりません。」</p> <p>"小池百合子「まずは喫緊の課題であります、新型コロナウイルス感染症対策、そして第二波への備え、最優先で取り組んで来ます。」</p> <p>ナレ「街頭演説は行わず、オンラインでの選挙戦を展開する現職の小池百合子氏は今日も夜に新たな動画を配信する予定です。」"</p> <p>"立花孝志「東京都知事選挙に勝ってNHKをぶっ壊す。」</p> <p>ナレ「立花孝志氏は一昨日で街頭演説を終え、今日は北海道に、現在アウトドアの耐久レースに参加していて陣営は明日の開票後に会見を行うかはレースの結果次第としています。この他、東京都知事選挙にはご覧の17人</p>		

が立候補しています、過去最多の 22 人が立候補している今回の選挙、投票日は明日で、即日開票されます。」

このトピックについて当てられた時間は 125 秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。



時間配分という点では特に問題は見られなかった。

・【特集】 香港が香港でなくなった日：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「では次の特集です、香港返還から 23 年目の節目に施行された国家安全維持法です。」とのコメント及び日下部キャスターの「香港市民の抗議活動に怒りと恐怖を覚えた中国政府が、もう香港政府には任せられない、我々が直接抑え込んでやる、これがこの法律の正体です。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「中国が香港の自由を制限する国家安全維持法が施行された。言論の自由、司法の独立を認めた一国二制度がもろくも崩れ去った。」

香港市民 A 「私達の怒りをこの法律に対する抵抗を見せつけるんだ」

香港市民 B 「我々は終わった、香港は終わった。」

ナレ「香港が香港でなくなった日、なおも声を上げ付ける人々、その未来は。7月1日、返還から 23 年を迎えた香港。香港行政のトップ林鄭月娥長官は中国政府が異例のスピードで成立させ、この日、施行した香港国家安全維持法をこう褒め称えた。」

林鄭月娥(香港行政長官)「中国政府が法を遵守する多くの香港市民を危険から守ると決心したという意思表示だ。国家安全法は香港が困難から逃れる転機だ。」 "

"ナレ「だが、この法律の実態は中国政府が香港を直接抑え込むこれまでとは次元の違うものだ。国家の分裂、中央政府の転覆、テロ活動、外国勢力と結託して安全を脅かす、これらの行為を禁止し、最高刑を終身刑としたみなした場合、中国本土の裁判所で裁くことも可能だ。香港研究の第一人者、倉田徹教授は。」

倉田徹(立教大学教授)「国家安全維持法の規定の中にですね、この法律は香港の既存の法律よりも優越すると銘

菓買うにかいてあるわけですね。従来の香港の司法のやり方を黙らせると言いますか、そういったようなやり方を選択したということができると思います。」

ナレ「5月、中国政府が突如国家安全法を導入する方針を発表、議論は全て北京で行われ香港人がカニよすることはおろか、なようも知らされること無く成立した、施行とともに初めて市民に明らかにされた条文、それは悪法そのものだった。」

香港市民「香港の一国二制度はもうなくなりました。何も知らないまま法律が通ってしまい、今朝初めて内容を見て、中国のやりたい放題だと思いました。」

ナレ「今年、警察は返還記念日のデモを許可しなかったがそれでも多くの人が街に繰り出し、声を上げた。」

香港市民「国家安全法は香港基本法に違反しています。中国本土の法律でさえこういった形で通ったことはなかったのに。」

香港市民「共産党の統治下では困難な未来が待っているでしょう、しかし私は正義があると信じています。」

ナレ「この日、警察は新たな警告文を市民に示した。」

警告文「あなた達のもっている旗や叫んでいる言葉は国家分裂や国を転覆させる意図があり、国家安全法違反で逮捕、起訴される可能性がある。」

ナレ「取り締まりを強めることを警告した警察。突然、一人で歩いていた若者が警官にリュックサックを捕まれ拘束された。記者も標的だ。商店に逃げ込んだ人を撮影する記者、すると。頭を狙って至近距離から容赦なく水が放たれる。別の記者にも。この日だけでおよそ370人が逮捕されたという。警察はこのうち、15歳の少女を含む10人が国家安全法違反容疑だと発表、香港独立とか書かれた旗を持っていたことが国家分裂に繋がる行為と判断された。さらに光復香港などと書かれた旗を掲げたバイクが転倒。運転していた23歳の男性が国家安全法違反などで逮捕された。この様子を撮影したのは評論家で番組司会者の曾志豪さんだ。」

外国人女性「歩いているだけです。」

警官「5分もここに立っているのを見ているぞ。」

曾さん「どうしても追い払いたいんだな、この警官はちゃんと外国勢力に屈せず英語で取り締まっているよ、国家安全法が自信を与えているんだな。」

"ナレ「実は曾さんは先月着々と進む言論統制により、長年の職場を奪われていた。」

出演者「実は中国本土と香港の取り締まりはあまり変わらないんじゃない、両方とも推定無罪。」

出演者「うん、秩序のある執行で、適切な人間管理です。」

ナレ「曾さんが出演していた香港公共放送のテレビ番組が突然打ち切りになった。頭條新聞、英語名ヘッドライナー、変換前の1989年から放送されてきた社会風刺番組だ。学生時代の民主活動家、黄之鋒さんや周庭さんも出演し、香港の中国化を目的とした国民教育を風刺していた。」

黄之鋒さん「あなたは私にそっくりですね。」

曾さん「あなたが黄之鋒さんか、私は20年後の君だよ。」この20年で国民教育は必修科目になって僕は毎年試験に合格できないんだ。20年間留年だよ。」

ナレ「今年5月、当局は内容が警察を侮辱抽象しているとしてき、番組は打ち切りに追い込まれた。」

曾さん「同僚は皆打ち切りで無力感に苛まれています、こうなったら私達は報道機関ではなく政府の広報機関になり、プロパガンダや政府のイメージアップを担うことになります、これはメディア関係者にとって最大の侮辱です。」

"日下部正樹「香港というのは本当に自由な土地で、もちろん風刺ですか強いものに対する批判、例えば権力批判とか、そういうものが盛んでしたよね。」

曾さん「番組の打ち切りが一番の風刺ではないかと思います。昔は風刺の番組がたくさんあったのに、今はできないんです。この番組が終わることは香港社会で自由というものが変化していることと大きな関係があります、言論の自由はもうなくなったんです。ついに、こういう番組も受け入れられなくなりました、香港の未来を悲観しています。」

ナレ「最終回はこう締めくくられた。」

出演者「国家安全法で平和になり暴徒が消え、みんなが歌い踊り、天下泰平を謳歌するでしょう。」

ナレ「曾さんにこれからの香港がどうなるか訪ねた。」

曾さん「明日の香港にも太陽はいつもどおり昇る。その光を眩しいと感じる人もいるでしょう、灼熱の苦しい光であるかもしれませんが、その光を歓迎する人もいます。逃げようとする人だっているかも知れません。太陽は一つでも様々な感じ方があるんです。」 "

(CM)

"ナレ「言論統制が強まる香港。一昨日、地元紙アップルデイリーの創業者黎智英氏に聞いた。」

黎智英 (香港紙「アップルデイリー」創業者)「香港の人々は共産主義下での生活を初めて味わうことになります。我々は終わりです、香港は終わりです、とても悲しいです。」

日下部キャスター「これがいま香港で話題を集めているアップルデイリー、りんご新聞というちょっと変わった名前の新聞です」

ナレ「香港が中国に返還される2年前に創刊されたアップルデイリー、香港政府や中国共産党に批判的な論調で知られている。」

アップルデイリーCM[上下左右を気にせず真実だけを追及する。アップルデイリーを読めばもう騙されない。]

ナレ「黎氏もコラムで当時の中国の李鵬首相を知能指数ゼロとこき下ろすなど中国政府を痛烈に批判してきた。民主派のデモに参加したなどの理由で、これまで何度も逮捕されている。」 "

"日下部正樹「あなたにも見の危険が迫る恐れがありますよね。」

黎智英「私は自分の生活や安全を心配するのを辞めました。心配すると何もできなくなるし何も言えなくなるからです。中国共産党は恐怖で人を支配することにとっても長けています。だからもうずっと前に怖がることを辞めました。」 "

"ナレ「先月下旬、自宅近くに突如何者かによって垂れ幕がかけられた。」

垂れ幕「中国共産党は黎智英の暗殺を計画している、」

ナレ「その頃から毎日不審な車が黎氏を尾行するようになった。アップルデイリーによると黎氏を監視していたのは元警察官だという。」

黎智英「彼らのぞみは私が逃亡することです。それこそが単純に彼らの利益になるからです。逃げることは私を貶めることになる。私が作ったアップルデイリーを裏切ることになるし、民主主義を求める運動への連帯をダメにすることになりますから、私は香港に残ります、出ていくことなどできません、この社会に責任がありますから。」 "

"ナレ「国家安全法の条文を見ると昨年続いた大規模でもその内容に大きく影響を与えていたことがわかる、と倉田教授は話す。」

日下部正樹「北京にとって去年の香港での抗議活動というのは相当こうインパクトがあったというかですね、恐怖さえ感じた部分もあるんでしょうかね。」

倉田徹「政府機関に対する攻撃、政府機関の運用の著しい阻害というようなことも罪に問うとされていますけれども、これは例えば道路を選挙するですとかあるいは立法会に突入した事件、そういったような去年のデモの過

程で起きたことを念頭に置いているのはおそらく明らかですね、主にターゲットにしているのは去年あったデモの大きな動き、これをなんとか止めたいと言うような意思であるということだと思っております。」

ナレ「国家安全法は中国政府が香港を直接支配する性格を持つ、新たに治安維持機関として国家安全維持公署を香港に設置。香港政府が行政長官をトップとして設立する国家安全維持委員会の監督指導に当たる。」

倉田徹「これはまちがなく香港の行政を骨抜きにすることになると思います、行政長官に対して様々な指示というものが中央政府から出されるのではないかと、そういったような疑いはもちろんこれまでも存在していたわけですが、それを言ってみれば正々堂々とやれる法的根拠というものが作られたということですね。」

ナレ「香港の民衆化を訴えてきた若者たちも瀬戸際に立たされている、民主派リーダーの一人、周庭さん。日本を中心に積極的な情報発信を続けてきた。」

周庭「今の香港の政治を見ているとすごく落ち込む人がたくさんいて、自殺した方もいたし、やっぱり政府も中々私達の意見も聞かないし、警察の暴力もどんどんどんどんひどくなったし。」 "

"ナレ「厳しい取り締まりを警戒し、所属していた政治団体は新法の導入の前に解散、今後は個人で活動を続けるという。」

周庭 (Twitter) 「絶望の中にあっても、いつもお互いのことを想い、私達はもっと強く生きなければなりません。生きてさえいれば希望があります。」 "

スタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返されていた。

"膳場貴子「香港の民主化運動を担ってきた周庭さんたち若者のね、この身辺というのがとても心配になるんですけども、今も周庭さんは安全なところにいるのでしょうか。」

日下部正樹「ちょっとよくわからない部分があるんですね、6月30日からずっと周庭さんに電話をしたりメールを送ったりしているんですけども、メールを読んだ形跡もなかったんですけども、昨夜になってね、本当に短い一文、いつかまた会えたらいいなと思いますという一文だけが来たんでちょっとホッとしていますね。」

膳場貴子「あの、外国人やメディア関係者にまであの強硬な取り締まりが及ぶようになりましたよね。これだと例えば日下部さんが今後香港で取材をするっていうときにあの、これまで通りには取材しにくくなるってことですよね。」

日下部正樹「例えば、そこまで行かなくても周庭さんとかうやって私が連絡を取り合う、もちろん周庭さんが一番リスクがあるわけですけども、私もですね、話す内容によってはですね、香港に行くと連行される可能性もあるし、今後香港の取材というのはですね、中国本土の取材、そんな覚悟も必要になってくるかもしれません。そして最後にですね、これ、6月28日に周庭さんが書いた Twitter なんですけども、『日本の皆さん、自由を持っているみなさんがどれくらい幸せなのかわかってほしい、本当にわかってほしい』、明日東京では東京都知事選の投票が行われます。」

膳場貴子「以上、特集でした。」 "

この特集に当てられた時間は秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】 香港が香港でなくなった日

日下部キャスターがスタジオで紹介していた周庭さんの『日本の皆さん、自由を持っているみなさんがどれく

らい幸せなのかわかってほしい、本当にわかってほしい』というツイートが非常に印象的であった。

日本でもコロナに乗じた歳出拡大すなわち政府の権限の強大化であるとか、医療体制の拡充という名のもとの負担増や生権力の強化などが進みつつあり、また一部にはそうした自由の縮小と政府権力の強大化を求め、歓迎する声があることに非常に危機感を覚えている。